

『新プライベートバンキング』の出版にあたって

公益社団法人日本証券アナリスト協会では、2011年12月、旧版『プライベートバンキング』を発刊し、2013年6月にはPB資格試験を開始するなど、先駆けとなって、わが国におけるプライベートバンカーの育成に取り組んできました。

この間、主としてプライマリー・プライベートバンカー（プライマリーPB）資格試験のテキストとして作成された『プライベートバンキング』が、資格取得を目指す方々のみならず、広くプライベートバンキング関連の知識を求める読者にも受け入れられてきたことは、金融・投資の分野における人材育成を使命とする協会にとって幸いでした。

2020年12月、当協会では、PB資格試験制度の発足10年を前に、資格試験制度の基盤となっている「プライベートバンキング基礎知識体系」の大幅な改定に踏み切りました。

わが国でプライベートバンカーの中心的な顧客層となっているオーナー経営者は、ファミリー（個人）とビジネス（事業）の両面で課題を抱えており、その一方を解決するだけでは十分なサービスを提供したことにはなりません。このため、これら両面の課題を分析し、解決策を考え、顧客に寄り添いながら実行を支援し、ファミリーとビジネス双方の持続的な発展を長期的にサポートできることが、プライベートバンカーに必要とされる特徴的なスキルであるという点をより強く意識して、関連する項目を充実させたものです。併せて、プライベートバンキング業務を巡る環境の変化も踏まえて大幅な改定を図りました。

これを受けて、プライマリーPB資格試験のテキスト『プライベートバンキング』については、本書『新プライベートバンキング』として、全面的に内容を一新することとしました。

内容を改めるにあたって本書では、想定する顧客層を事業承継が大きな課題となっているオーナー経営者に絞りました。その課題の解決に必要な知識という観点から記述することで、解説の統一感を保つようにしたものです。これらの知識を一通り学ぶことにより、開業医等の専門職、地主等の資産家からマス富裕層まで、多様な顧客層への対応にも応用できる基礎を身につけることができるようになっています。

本書では、「はじめに」でプライベートバンキングビジネスについて概観します。プライベートバンキングの意義や可能性について認識していただきます。

続く、第1編「顧客とのかかわりと職業倫理・行為基準」では、プライベートバンカーにとって顧客を知ることの意義と手法、ファミリービジネスの特徴について解説しています。さらに、顧客のために最善を尽くすプライベートバンカーにとっての職業倫理の重要性と、職業行為基準について十分に理解を深めていただきたいと思います。

第2編「資産の運用」では、顧客の資産状況を把握することに始まり、金融資産の運用と不動産の運用について解説します。

第3編「資産の承継・管理」では、相続の法務、税務、納税資金対策、成年後見制度といった一般的な内容を押さえるとともに、近年普及が進んでいる信託について、実務で想定される事例に基づく説明を充実させています。

第4編「事業の承継」では、その手法について親族内承継と親族外承継に分けて詳しく解説しています。その際に、ビジネスの持続的な成長を支えるために役立つ知識として、事業価値評価も取り上げていることは、これまで

にない特徴です。

より学習しやすいテキストとなるよう、原則として、各章の冒頭に、「学習ポイント」を、章末に「本章のまとめ」を置きました。また、適宜例題を掲げて知識の確認、定着を図るようにしています。本文と関連する実務で役立つ知識や発展的な内容は、コラムや補論として盛り込みました（プライマリーPB試験の対象とはしないので、難しければ読み飛ばしていただくこともできます）。

本書が、プライマリーPB資格試験を目指す方々はもちろんのこと、既にプライマリーPB資格を有している方や、プライベートバンキング実務に携わっている方にとって知識の整理とブラッシュアップのために役立てられることを願っています。

2023年1月

公益社団法人日本証券アナリスト協会